

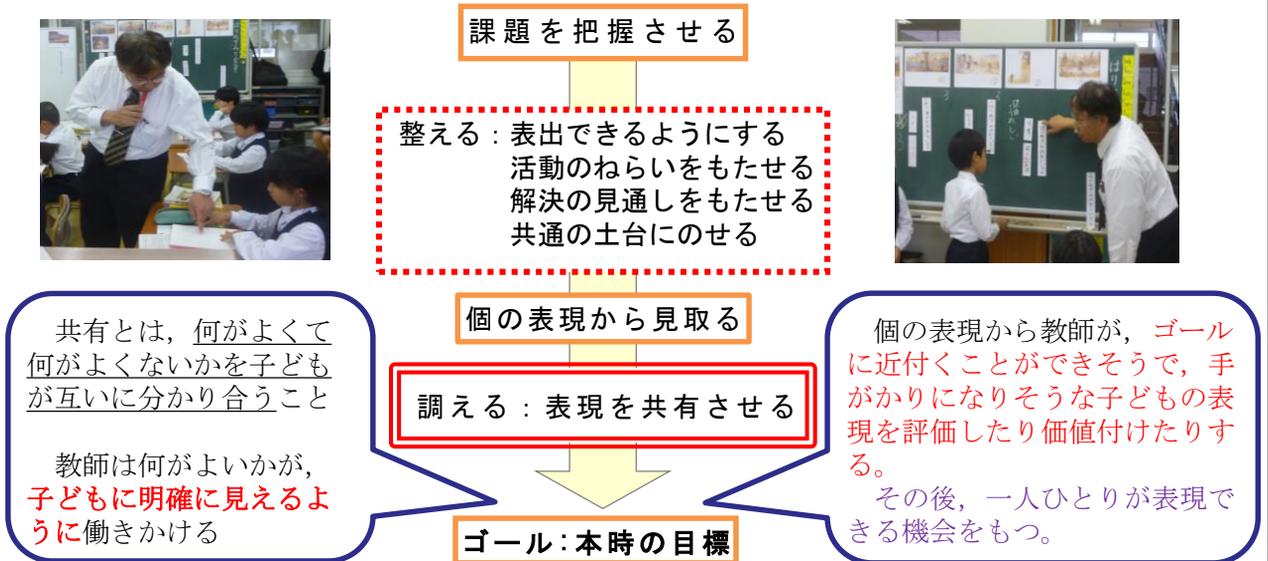


「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成28年度 初任者研修 課題等研修Ⅶ【小学校】  
**「複式学級における授業づくりについて」** 平成28年11月18日（金）  
 公開授業及び講演 講師：高知大学教育学部附属小学校 田中 元康 教諭

複式学級での学習過程			教師が子どもと直接関わる場
学習過程	主な指導形態	学習活動	
把握課題	◇ 直接指導	学習課題が分かり、解決への見通しをもつ。	課題をつかむ場 子どもたちの考えをゆさぶる場 基本事項の指導を徹底する場 子どもの学びを把握する場
自力解決 学び合い	◇ 間接指導 ◇ 間接指導 →直接指導	予想・仮説に基づき方法を考え、解決に向かう。	<b>教師が直接関わる必要がない場</b>
まとめ	◇ 直接指導	学習成果を発表しながら、討議・修正・まとめをする。	課題を自力解決する場 子ども同士の考えを吟味し合う場 学んだことをまとめ、練習する場
適用 発展 振り返り	◇ 間接指導	発展的な課題の解決に努めたり、適用場面を考えたりする。また、今日の授業で何を学んだのかを振り返る。	直接指導… 授業者が児童に対して、直接学習内容を指導する時間 間接指導… 児童が教師の直接的な指導によらず、学習を行う時間

【思考を深める授業 教師の働きかけ】子ども主体パターン



- 一人が優れた答えを言って、それを「いいです」で終わらせる授業から脱却するために、一人ひとりが表現する機会のある授業を行う。

**表現する ⇒ 検討する ⇒ どのように表現すればよいか**が明確になる

- 授業が、思考する場になるように、視覚化、焦点化、共有化を教師が働きかけ、子どもが参加したいと思う授業（子どもが思考する授業）を行う。
- 教師が子どもの学習している状況を見る。（見る・観る・看る）そして、それに合わせて適切に手立てを講じるようにする。

【受講者の感想】

- 子どもが表現できるようにするためには、一人ひとりに気づきや意見をもたせることが大事だと思った。そのためにも、まずは、比較する視点を与えるなど工夫をしていきたい。

全体講演 「次代を生きる子どもたちを育む授業づくりの方向性」

講師：横浜市立六浦南小学校長 齊藤 一弥 先生



今を生きる子ども

グローバル化された未来を生きる子ども

新しい時代を生きる、未来の創り手になる子どもたちに、必要な知識や力を身に付けさせるために、学校教育は何を準備しなければならないか？

教科指導の原点回帰へ

チャレンジ1…教科指導の果たす役割の徹底

- ・ 「能力」をゴールに据え、子どもが主体的、協働的に考え進む授業づくりをする。
- ・ 教科の本質をとらえ、どのような子どもを育てたいかという意識をもって繰り返し指導する。
- ・ 「教科」=「文化遺産」をいかに伝承していくかについて丁寧に考える。

チャレンジ2…コンテンツ (内容) ベースからコンピテンシー (資質・能力) ベースへの転換

三つの柱から身に付ける力を分析する

- 何を理解しているか、何ができるか  
活用可能な活性化された「知識・技能」
- 理解していること・できることを使う  
未知の世界で生かすことができる教科特有の「思考力・判断力・表現力」
- 社会・世界と関わり生きる  
教科や生活を支える「学びに向かう力」

具体例

【8年 社会】

★ 身に付ける力 ~三つの柱~

- 社会で固有な知識や技能
  - ・ 時代の特色を踏まえた事実の理解
  - ・ 資料などの効果的な収集・分析
- 社会で大切な思考力・判断力・表現力
  - ・ 多面的・多角的考察 (→事象の関係付け)
  - ・ 論理的説明及び議論 (→考えの整理・統合)
- 社会を超えて動く学びに向かう力
  - ・ 主体的追求と社会への積極的関わり



内容の質を丁寧に問う

意味理解を伴った知識の獲得をさせる。

授業の「まとめ」を変える

知識、技能面をゴールに据えるのではなく、各教科特有のものの方の見方・考え方でまとめる。

チャレンジ3… 学びのコンテキスト (文脈) の生起

本来めざすべき指導の在り方を考える

問題解決の一連の学習指導、学習方法に「正しいこだわり」をもち、説明することができる内容になっているか。

教科特有の学びの文脈を考える

問題解決過程≠文脈

問題解決の質を確実に保障するための文脈を考える。「教科の本質」に触れるための展開を用意し、「見方・考え方」を追求する。

具体例

【3年 理科】

★ 能力をゴールに据えた「問い」

- 回路成立の説明から何を学ぶのかを問う
- 資質・能力育成につながる、価値ある「問い」、ゴールに向かう学びの文脈を見据えた「問い」を考える

★ 理科のものの方の見方・考え方

- 理科の本質から、まとめを見直す  
→ 内容ベースから資質・能力ベースでのまとめへ変換する



実感的な学びを考える

授業で習得した知識や考え方を、身のまわりのことに「手段」として役立たせることができるような指導をする。【オーセンティック(真正)な学習場面+明示的な指導】

土佐山学舎の授業の様子

土佐山学



外国語活動

ICT活用



研究の取組については、当研究所が発行する所報「研究」12月号に掲載されています。